

平成 30 年度
亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略
評価検証報告書

亀山市

総合政策部政策課

【目次】

1. 評価検証に係る基本的な考え方	1
(1) 評価検証の目的	1
(2) 評価検証の対象及び手法	1
(3) 評価検証の流れ	1
2. 評価検証の具体的な方法	2
(1) 総合戦略の評価検証について	2
(2) 地方創生関連交付金活用事業の評価検証について	4
3. 総合戦略の評価検証	5
(1) 基本事項	6
(2) 総合戦略全体の評価	7
4. 地方創生関連交付金活用事業の効果検証	17
(1) 若者交流推進事業	18

1. 評価検証に係る基本的な考え方

(1) 評価検証の目的

亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、「総合戦略」という。)に位置付けた各施策の更なる推進に向けた課題の改善を図り、より一層高い効果を発揮させることを目的として、評価検証を行う。

また、総合戦略に位置付ける事業の一部は国の地方創生関連交付金を活用しており、その実施計画及び地域再生計画において、各事業の検証を行い公表することが明記されていることから、交付金活用事業の評価検証を併せて実施する。

(2) 評価検証の対象及び手法

本検証は、「総合戦略の施策評価」及び「地方創生関連交付金活用事業の事業評価」で構成する。

評価対象	手法
総合戦略	総合戦略全体の総括評価・各基本目標の施策評価
地方創生関連交付金事業	KPIの検証を中心とした事業評価

また、国のまち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証の考え方に基づき、「数値目標」及び「重要業績評価指標(KPI)」の達成度を確認し、結果重視の検証を行う。

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略(2018改訂版)」より抜粋

(5) 結果重視

効果検証の仕組みを伴わないバラマキ型の施策は採用せず、明確な PDCA メカニズムの下に、短期・中期の具体的な数値目標を設定し、政策効果を客観的な指標により検証し、必要な改善等を行う。

(3) 評価検証の流れ

「亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定推進本部」での内部検証、外部有識者で構成する「亀山市地方創生会議」での外部検証を行う。また、検証結果については市議会に報告するとともに、市 HP で公表する。

地方創生関連交付金活用事業の検証結果については、必要に応じ、県を通じて国に報告する。

内部検証 亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定推進本部

外部検証 亀山市地方創生会議

報告・公表 市議会、市 HP、国(内閣府)

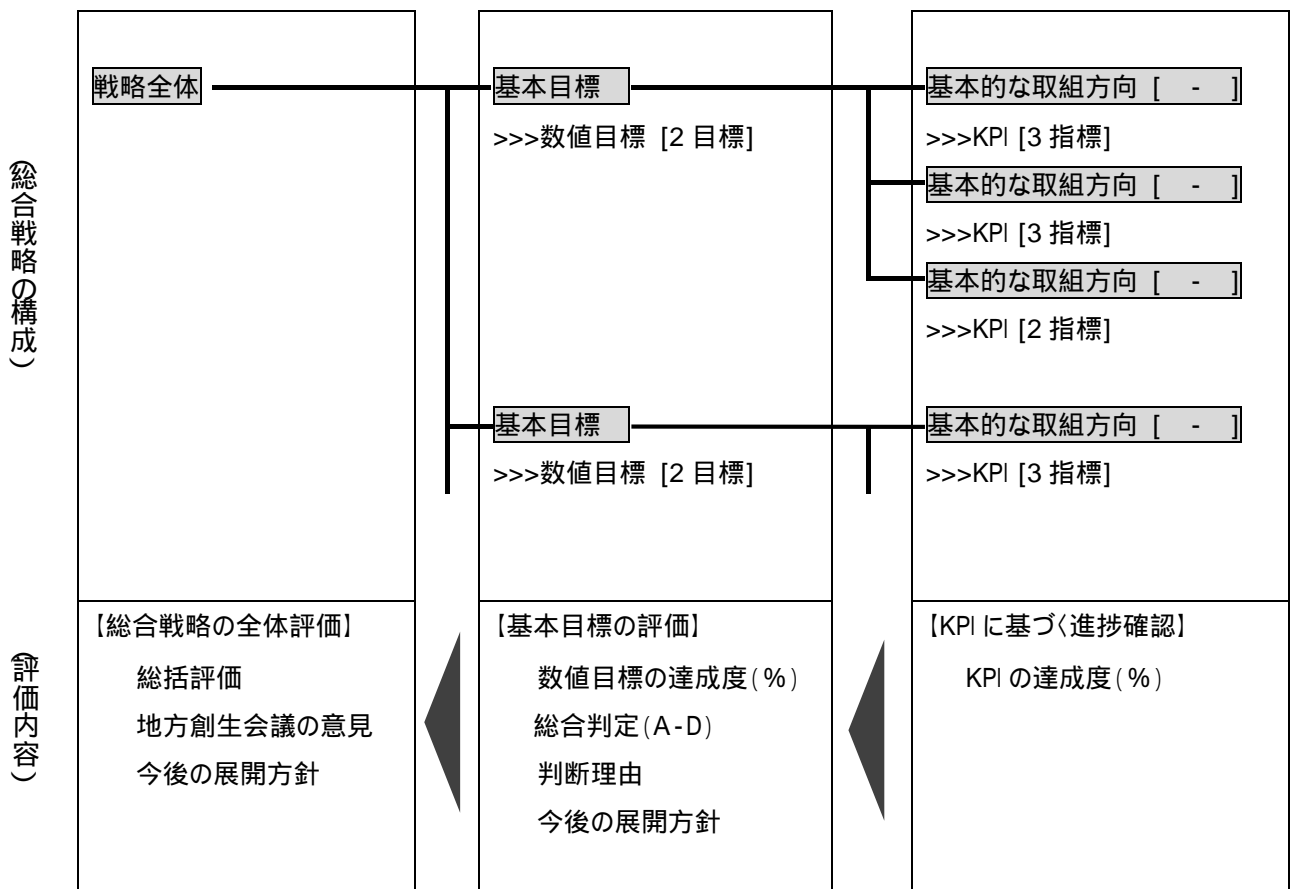
2. 評価検証の具体的な方法

(1) 総合戦略の評価検証について

総合戦略の評価検証は、「総合戦略の全体評価」、「基本目標の評価」及び「基本的な取組方向の進捗確認」で構成する。

なお、検証にあたっては、4つの基本目標毎に設定した「数値目標」、及び10の基本的な取組方向毎に設定した「重要業績成果指標(KPI)」の達成度を確認するとともに、それらの達成状況等に重点を置いて評価する。

- 総合戦略の評価検証(全体イメージ) -



【評価区分及び項目に関する説明】

総合戦略全体

項目	記述内容
(1) 総括評価	「基本目標の評価」を踏まえた戦略全体の総括
(2) 地方創生会議の意見	市の総括評価に対する地方創生会議の意見
(3) 今後の展開方針	「基本目標の評価」及び「地方創生会議の意見」を踏まえた戦略全体の今後の展開方針

基本目標

項目	記述内容
(1) 数値目標の進捗	実績値、達成度
(2) 基本目標の評価	総合判定(A-D)、総合判定の判断理由
(3) 今後の展開方針	評価を踏まえた今後の展開方針

【総合判定区分】

A: 順調に進んだ B: まずまず進んだ C: 少し進んだ D: 進まなかった

【総合判定の基本的な考え方】

原則として、数値目標及び基本的な取組方向毎に設定した「重要業績成果指標(KPI)」の達成度に重点を置き、その他の考慮すべき事項等も勘案して、総合的に判断する。

数値目標及びKPIの達成度について

目標値に対する実績値の達成度合いを確認するため、達成度を算定する。

<達成度の算定方法>

$$\text{達成度}(\%) = \text{実績値} / \text{目標値} \times 100$$

(2) 地方創生関連交付金活用事業の効果検証について

地方創生関連交付金活用事業

交付金の種別	事業名	担当課
地方創生推進交付金	若者交流推進事業	政策課 (政策調整 G)

検証方法

地方創生関連交付金活用事業の検証に係る項目等については、原則として国が求める評価項目に準じ、下記のとおり項目設定して評価を行う。

項目	内容
実績	取組内容等の年度実績
効果	地方創生への効果の有無(4段階)
重要業績評価指標(KPI)	指標値及び実績値
外部有識者の総合評価	総合戦略の KPI 達成への有効性の有無(2段階)、意見
今後の事業展開	改善・継続等の有無、事業展開の考え方

3. 総合戦略の評価検証

(1) 基本事項

戦略の位置付け・目的

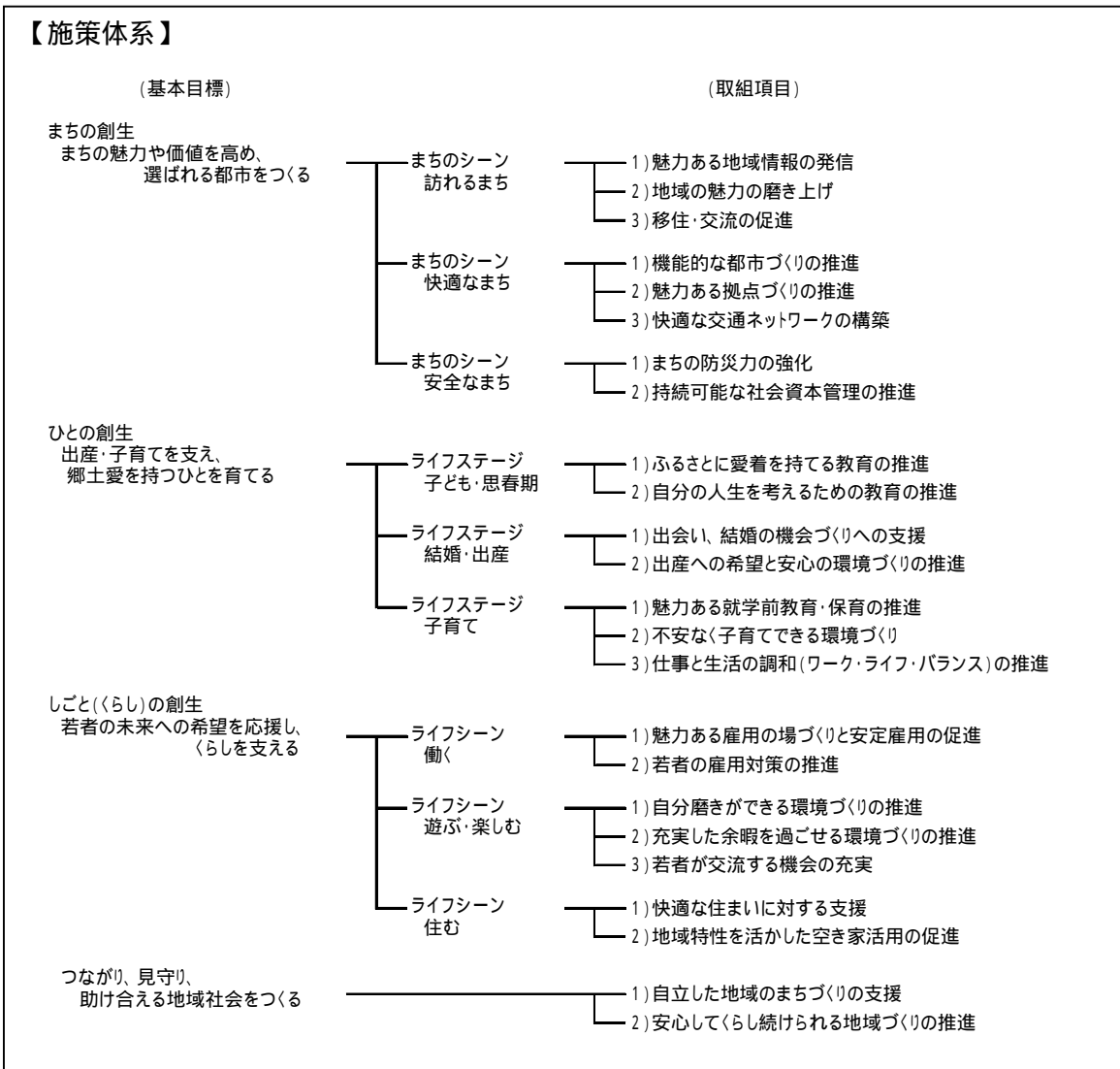
本総合戦略は、平成 26 年 11 月に制定された「まち・ひと・しごと創生法」に位置づけられる地方版総合戦略として、「亀山市人口ビジョン」と一体的に策定している。

策定にあたっては、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び、県の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案するとともに、市の最上位計画である総合計画との整合を図っている。

戦略の期間

平成 27 年度から令和元年度(平成 28 年度一部改訂)

戦略の骨格



(2) 総合戦略全体の評価

総括評価

本市の人口は、出生数が平成 28 年度の水準に回復したものの、死亡数が依然として出生数を上回っており、自然減となっている。また、日本人、外国人ともに転入超過となっており、昨年度に引き続き社会増となっている。こうしたことから、全体人口はほぼ横ばいで推移し、亀山市人口ビジョンに掲げる概ね 5 万人を維持しているが、外国人の人口比率が上昇傾向にあるなど、市内企業の雇用環境等社会情勢の影響を受けやすい環境にある。

一方、年少人口比率は約 14.1%と全国的にも高い割合で推移しており、これからのまちづくりを見通す上で期待できる本市の強みであり、今後もこれを維持していく必要がある。

そのため、人口の安定化や持続可能性の観点から、将来の人口減少をできる限り抑制しつつ、バランスの取れた人口構成としていくため、子育て支援や働く場をより一層充実させるとともに、各施策の着実な推進により都市の価値を向上させ、子育て世帯の定住促進を図っていく必要がある。

なお、地方創生の取り組みは短期間で効果を発揮するものではないことから、単年度ごとの結果にとらわれることなく、中長期的な視点を持って取り組んでいく必要がある。

地方創生会議の意見

外国人については、今後も人口が増加することを想定しながら、多言語対応などの社会的インフラを整備しつつ、多様性を認める共生社会の実現に向けた取組が必要である。

また、観光入込客数が減少傾向にあることから、魅力的な観光資源の発掘や、県内の観光地とパッケージ化するなど、亀山市を目的地として訪れてもらうための工夫が必要である。

出生率の上昇に向けては、企業での人手不足が深刻化する中、特に中小企業においては、ワーク・ライフ・バランスの維持や育児休業制度の充実が図りにくい状況にある。出産・子育てを希望する人が、第 2 子、第 3 子に繋げることができるよう、認証制度や表彰制度を設けるなど、中小企業がワーク・ライフ・バランスの推進に前向きに取り組めるような行政的支援が必要である。

一方、まちの住みよさの向上に向けては、市内全域に設立されている地域まちづくり協議会が、地域課題の解決に向けて取り組むことができるよう、より多くの地域住民を巻き込んだ活動としていくとともに、行政としてのサポートが必要である。

今後の展開方針

自然増に向けた対策としては、出産を希望する人が、その希望を叶えることができるよう、妊娠期から子育て期までにわたる切れ目ない支援を行うとともに、SNS を活用した子育て関連情報の発信など、より一層安心して産み育てられる環境づくりに取り組んでいく。

社会増に向けた対策としては、本市の誇りと魅力である自然環境や歴史文化の保全を一層推進するとともに、亀山駅周辺整備や都市計画道路等の整備を着実に推進することで、都市の魅力や価値の向上を図り、移住・定住に繋げていく。

なお、地方創生の取組効果は、短期間の取組では測ることができないことから、各施策・事業の着実な推進を図っていく。

亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート(平成30年度)

基本目標	まちの魅力や価値を高め、選ばれる都市をつくる
------	------------------------

数値目標の進捗

項目	現状	実績値					目標値	達成度
		H27	H28	H29	H30	R1		
社会増減数 (転入数 - 転出数) (人)	43 (22 - 26年 度)	-149 (23-27)	10 (24-28)	376 (25-29)	248 (26-30)		357 (平成27 - 令和元年度)	69%
数値目標の説明	5年間の社会増減の合計							
目標値設定 の考え方	H29.2改訂の亀山市人口ビジョンの人口展望に基づき、平成27年(4月1日:基準日)から令和2年(3月31日)までの社会増減を5年間の目標として設定した。							

項目	現状値	実績値					目標値	達成度
		H27	H28	H29	H30	R1		
観光入込客数(人)	261,031 (26年度)	306,650	241,093	248,902	235,411		347,000 (令和元年度)	68%
数値目標の説明	対象施設(歴史博物館、玉屋資料館、道の駅関宿、サンシャインパーク、かぶとの森テラス(旧:名阪森林パーク)および石水溪キャンプ場施設)の観光客数							
目標値設定 の考え方	H29.2見直し。(総合計画の目標値と精査) 総合計画の指標は、H27年度(306,650人)に対して、地域の魅力を磨き上げ、発信することで、市内に訪れる観光客を20%増加させることを目標とした。 総合戦略では、途中経過の値を目標値に設定した。							

基本目標の評価

<p>【判断理由】</p> <p>本市の社会増減数(5ヶ年の合計)が3年連続でプラスとなっている。その主たる要因は外国人の増加であり、全国的に外国人労働者が増加するなか、市内の企業においても外国人雇用が進んでいるものと考えられる。平成31年3月の新名神高速道路の県内区間の開通により都市計画道路の整備率は向上し、また、市道野村布気線の整備が着実に進捗しており、地域の産業・経済活動や人の交流の活性化に向けた交通基盤は着実に整いつつある。また、きめ細やかな情報発信によるシティプロモーション専用サイトへの訪問者数の増や、移住相談窓口を介した移住者数の実績増など、本市の魅力は市内外へ広く発信できていると考えられる。一方で、観光入込客数は減少傾向にあり、基本目標の総合判定を「B」とした。</p>	総合判定
	B
	まずまず進んだ

今後の展開方針

<p>本市の誇りと魅力である自然環境や歴史文化の保全を一層推進し、地域の魅力を磨き上げるとともに、こうした魅力を市内外に効果的に発信できるよう、定住・観光の両面から、積極的なシティプロモーション活動を展開していく。</p> <p>また、本市の中心的都市拠点である亀山駅周辺の再開発や、空き店舗の活用促進、都市計画道路の整備等を着実に進めるとともに、木造住宅の耐震化や自主防災組織の結成促進を図り、市民や訪れる人にとって快適で安全なまちを目指す。</p> <p>一方、観光分野については、関宿の伝承活動・文化発信の新たな拠点である「関の山車会館」や亀山7座トレイルなどの地域資源を活用した観光振興を図るとともに、亀山市観光協会を中心とした関係者が一体となって観光振興に取り組むことのできる体制を構築を進め、地域の観光マネジメント力を高めることで、観光入込客数の増を目指す。</p>

重要業績評価指標 (KPI) の進捗

	指標	現状値	実績値					目標値	達成度
			H27	H28	H29	H30	R1		
まちのシーン 訪れるまち	シティプロモーション専用サイトへの訪問者数(年間延べ人数)(人)	- (27年度)	-	7,834	36,646	68,115		100,000 (令和元年度)	68%
	伝統的建造物群保存地区内の街道に面した建造物の修理修景事業の完了率(%)	55 (26年度)	56	57 (実数 56.3)	56.5	57.3		58.8 (令和元年度)	97%
	移住相談後の移住件数(累計)(件)	- (27年度)	-	0	0	4		15 (令和元年度)	27%
まちのシーン 快適なまち	立地適正化計画の策定	- (27年度)	-	計画案の 策定	策定	-	-	H29.3	100%
	亀山駅周辺の再生(都市計画決定)	- (27年度)	-	未完了	完了 (H30.3)	-	-	H29.3	100%
	都市計画道路の整備率(%)	58 (26年度)	58.0	58.0	58.1	61.9		64 (令和元年度)	97%
まちのシーン 安全なまち	自主防災組織の結成率(%)	84 (27年度)	84.0	83.1	84.0	82.1		94.6 (令和元年度)	87%
	公共施設等総合管理計画の策定	- (27年度)	-	策定	-	-	-	H29.3	100%

亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート(平成30年度)

基本目標	出産・子育てを支え、郷土愛を持つひとを育てる
------	------------------------

数値目標の進捗

項目	現状	実績値					目標値	達成度
		H27	H28	H29	H30	R1		
合計特殊出生率	1.58 (25年度)	1.47	1.50	1.32	-		1.65 (令和元年度)	80%
数値目標の説明	一人の女性が一生のうちに出産する平均子ども数							
目標値設定の考え方	亀山市人口ビジョンの人口展望に基づき、近年の上昇傾向が維持するものとして算定した将来値を目標に設定した。							

項目	現状値	実績値					目標値	達成度
		H27	H28	H29	H30	R1		
若年世代の未婚率 (%)	男性 [20-29歳] 65.9 [30-34歳] 44.5 女性 [20-29歳] 48.3 [30-34歳] 24.7 (22年度)	男性 [20-29歳] 67.7 [30-34歳] 41.9 女性 [20-29歳] 51.1 [30-34歳] 26.9	令和2年度の国勢調査にて把握				男性 [20-29歳] 64.0 [30-34歳] 40.0 女性 [20-29歳] 45.5 [30-34歳] 24.0 (令和2年度)	93%
数値目標の説明	「25～29歳」、「30～34歳」の人口に占める未婚者数の割合							
目標値設定の考え方	現在、本市の男性未婚率は、県内で20代後半が8位、30代前半が18位であり、女性未婚率は、両世代ともに県内4位の数値である。男性未婚率は県内の上位5位以内、女性未婚率は県内上位3位以内に入る数値を目標に設定した。							

基本目標の評価

<p>【判断理由】</p> <p>平成29年度の本市の合計特殊出生率は1.32となり、前年度の1.50から下降している。この主たる要因は平成29年度の年間出生数の低迷によるものと考えられるが、平成30年度の出生数は平成28年度並みの水準に推移しており、平成30年度の合計特殊出生率については、一定の上昇が見込まれる。</p> <p>将来を担う子どもたちの愛着醸成については、高等学校等と連携した取組が進むとともに、アンケート等の回答結果の数値が概ね良好に推移している。</p> <p>また、待機児童については、保育所は横ばい、放課後児童クラブはゼロを維持するなど、増加するニーズに概ね対応できており、総合判定を「B」とした。</p>	<p>総合判定</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>まずまず進んだ</p>
--	--

今後の展開方針

<p>次世代を担う子どもたちが、本市に愛着と誇り持って成長してもらえるよう、より一層子どもたちが地域社会や歴史・文化に触れることのできる機会づくりを進める。</p> <p>また、結婚や出産、子育てを希望する人が、その希望を叶えることができるよう、引き続き、男女の出会いの機会づくりに取り組むとともに、子育て世代包括支援センターを中心とした妊娠期からの切れ目のない支援や、医療費の無料化や多子世帯に対する支援など、子育てに対する経済的負担の軽減を図っていく。</p> <p>また、育児と仕事の両立については、意識啓発だけでなくとどまらず、企業・個人の具体的な行動変容に繋がるよう、保育所・放課後児童クラブなどの保育環境の充実と併せて、男性の育児休暇取得促進のための支援制度の構築に努める。</p>

重要業績評価指標 (KPI) の進捗

	指標	現状値	実績値					目標値	達成度
			H27	H28	H29	H30	R1		
ライフステージ 子ども・思春期	全国学力学習状況調査において「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答する児童生徒の割合(%)	小6:32.6 中3:30.0 (27年度)	小6:32.6 中3:30.0	-	小6:34.7 中3:28.1	小6:31.1 中3:37.3		小6:45.0 中3:33.0 (令和元年度)	88%
	高等学校等と連携した取組事案件数(累計)(件)	- (27年度)	-	0	4	11		5 (令和元年度)	220%
	職場体験学習生徒アンケートにおいて「あなたにとって進路や将来について考える機会になった」という肯定的な意見の割合(%)	82 (27年度)	-	83	88	92		85 (令和元年度)	108%
ライフステージ 結婚・出産	婚活支援事業により出会いを得た人数(累計)(人)	- (27年度)	-	61	115	200		500 (令和元年度)	40%
	年間出生数(人)	458 (26年度)	430	414	371	411		475 (令和元年度)	87%
ライフステージ 子育て	「せいかつちゃれんじシート」に取り組んだ家庭の割合(%)	62 (26年度)	64	59	68	56		80 (令和元年度)	70%
	保育所・放課後児童クラブの待機児童数(毎年4月1日)(人)	[保育所] 9人 [放課後] 0人 (27年度)	[保] 9人 [放] 0人	[保] 6人 [放] 0人	[保] 3人 [放] 0人	[保] 6人 [放] 0人		0 (令和元年度)	33%
	男性の育児休業取得に積極的に取り組む事業所への支援策の構築	- (27年度)	-	検討中	検討中	検討中		H28.12	0%

亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート(平成30年度)

基本目標	若者の未来への希望を応援し、暮らしを支える
------	-----------------------

数値目標の進捗

項目	現状値	実績値					目標値	達成度
		H27	H28	H29	H30	R1		
若者の定住意向 (「ずっと住みたい」、「できれば住みたい」と回答する20歳代以下および30歳代の市民の割合)(%)	73.5 (27年度)	73.5%	-	-	81.3%	-	75.0 (30年度)	108%
数値目標の説明	「ずっと住みたい」、「できれば住みたい」と回答する「20歳代以下」および「30歳代」の市民の割合							
目標値設定の考え方	現在の定住意向は、「20歳代以下」で64.8%、「30歳代」で80.3%となっている。特に「20歳代以下」の定住意向を70%にまで引き上げ、若者世代の定住意向を75%とすることを目標に設定した。							

項目	現状値	実績値					目標値	達成度
		H27	H28	H29	H30	R1		
数値目標の説明								
目標値設定の考え方								

基本目標の評価

【判断理由】 働く場の充実については、新名神高速道路の県内区間開通等を背景として、亀山・関テクノヒルズにおいて新たに1社が操業を開始するとともに、新分譲地への進出決定が相次いでおり、今後、新たな企業立地と雇用の創出が期待できる。また、若者交流推進会議(かめやま若者未来会議)のメンバー増や取組の拡大など、若者同士が交流する機会づくりが進んでいる。さらには、住宅取得支援制度を構築し令和元年度からの前期基本計画第2次実施計画から実施することとしており、若い世代が豊かに生活できる環境づくりを進めることでできていると考えられる。 こうした若い世代が働く・過ごす・住むことに関する環境の充実に加え、数値目標の若者の定住意向が前回調査から7.8ポイント上昇し、81.3%となっており、総合判定を「A」とした。	総合判定 A 順調に進んだ
--	------------------------------------

今後の展開方針

<p>本市の立地優位性や県内トップクラスの産業振興奨励制度を活かし、亀山・関テクノヒルズへの企業誘致を積極的に展開し、就労の場を確保するとともに、若い世代による新たなビジネスの創出を後押しすることで、魅力的に働くことのできるまちを目指していく。</p> <p>また、若い世代の暮らしの充実については、交流の基盤となるかめやま若者未来会議において政策アイデアの検討を行うなど、若者が主体的かつ積極的に活動し、まちづくりに参加できる環境を整えるとともに、令和3年度のとこわか国体開催と併せて、会場となる西野公園の整備を行うなど、充実した余暇を健康的に過ごせる環境づくりを進める。</p> <p>住まいについては、近年、住宅取得や空き家活用に関する支援制度を構築しており、市内外に効果的な情報発信を行い、移住・定住に繋げていく。</p>

重要業績評価指標 (KPI) の進捗

	指標	現状値	実績値					目標値	達成度
			H27	H28	H29	H30	R1		
ライフシ ン 働 く	企業立地件数 (累計)(件)	2 (27年度)	2	4	4	5		6 (令和元年度)	83%
	奨学資金等に対する 支援制度の構築	- (27年度)	-	検討中	関連支援 制度を 構築	-		H28.12	0%
ライフシ ン 遊 ぶ ・ 楽 し む	公民館講座、行政出 前講座の直近3年間 の受講者数の平均 (年間延べ人数) (人)	23,165 (24 - 26年 度)	24,103	24,615	22,468	21,417		26,500 (平成29- 令和元年度)	81%
	市内運動施設の年間 利用率 (%)	74.6 (26年度)	72.0	71.9	72.1	74.1		76.0 (令和元年度)	98%
	(仮称)若者交流推 進会議の登録者数 (累計)(人)	- (27年度)	-	35	43	50		50 (令和元年度)	100%
ライフシ ン 住 む	若者世帯向け住宅取 得支援制度の構築	- (27年度)	-	検討中	関連支援 制度を構 築	住宅取得 支援制度 を構築		H28.12	100%
	空き家情報バンク登 録物件の契約成立数 (累計)(人)	4 (27年度)	4	8	9	11		21 (令和元年度)	52%

亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート(平成30年度)

基本目標	つながり、見守り、助けあえる地域社会をつくる
------	------------------------

数値目標の進捗

項目	現状値	実績値					目標値	達成度
		H27	H28	H29	H30	R1		
まちの住みよさ ('住みやすい'、'どちらかと言えばすみやすい'と回答した市民の割合)(%)	72.9 (27年度)	72.9	-	-	70.0	-	78.5 (30年度)	89%
数値目標の説明	'住みやすい'、'どちらかと言えばすみやすい'と回答した市民の割合							
目標値設定の考え方	現在の調査で、'どちらとも言えない'と回答した市民(17.2%)のうち、3分の1の市民が住みやすいと回答することを目標に設定した。							

項目	現状値	実績値					目標値	達成度
		H27	H28	H29	H30	R1		
数値目標の説明								
目標値設定の考え方								

基本目標の評価

<p>【判断理由】</p> <p>市内まちづくり協議会の全22地区において、地域の将来像及びまちづくりの基本方針となる「地域まちづくり計画」が策定され、地域が主体的かつ計画的な活動を進めることのできる環境が整っている。</p> <p>また、健康づくり応援隊養成講座の積極的な開催により修了者数が上昇し、地域での健康づくり活動の促進につなげることができている。</p> <p>その一方で、数値目標である「まちの住みよさ」については、前回調査から2.9ポイント下降の70.0%に留まっているものの、重要業績評価指標(KPI)が目標値に到達していることから、総合判定を「B」とした。</p>	<p>総合判定</p> <p>B</p> <p>まずまず進んだ</p>
--	--

今後の展開方針

<p>全22地区の地域まちづくり協議会が、地域まちづくり計画に基づき計画的かつ主体的に活動を行っていき、引き続き、財政的支援やアドバイザーの派遣・研修を実施するとともに、CSW(コミュニティソーシャルワーカー)を配置し地域における地域の福祉課題を解決する仕組みづくりを支援することで、地域まちづくり協議会を中心とした助け合い・支え合い活動を促進していく。</p> <p>また、市民が主体的に行う健康づくり活動への支援や、地域包括支援センターの機能強化、地域の実情に応じた高齢者サービスの開発や担い手支援、医師の確保や地域医療機関・多職種間の連携強化による地域医療の再構築等を進め、市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる地域づくりを進めていく。</p>

重要業績評価指標 (KPI) の進捗

	指標	現状値	実績値					目標値	達成度
			H27	H28	H29	H30	R1		
	まちづくり計画を策定した地域まちづくり協議会の数(累計)(組織)	0 (26年度)	3	4	12	22	22 (令和元年度)	100%	
	健康づくり応援隊養成講座の修了者数(累計)(人)	72 (26年度)	99	121	121	158	150 (令和元年度)	105%	

4. 地方創生関連交付金活用事業の 効果検証

事業効果検証シート

1. 基本事項

事業名称	若者交流推進事業	部課名	総合政策部政策課(政策調整G)
施策体系	基本目標	Ⅲ 若者の未来への希望を応援し、くらしを支える	
	シーン・ステージ	ライフシーン② 遊ぶ・楽しむ	
	取組項目	3)若者が交流する機会の充実	
	重点プロジェクト	若者の暮らし充実プロジェクト	

2. 事業計画

背景・概要	【地方創生として目指す将来像(交付対象事業の背景)】 ①若者同士が活発に交流し、市の事業への積極的な参画を通じて、地域に活力が生まれている。 ②本事業により交流した若者が地元愛を持ち、自ら地域を盛り上げる活動を展開している。		
	【地方創生の実現における構造的な課題】 ①若者が交流する機会や、主体的にまちづくりや市政に参画する基盤がない。 ②市の事業への若者の参画が少ない。また、事業の内容が若い世代の視点に欠けており、若い世代が集まらない。 ③若者のまちづくりへの参画に対する意識は低く、本市への地元愛や誇りの低下に繋がっている。		
	【交付対象事業の概要】 「若者交流会議」を設置し、若者同士が交流する基盤を確保するとともに、市の事業への参画や事業立案等を通じ、会議メンバーによる主体的な活動を促進する。また、会議メンバーへのスキルアップ研修を行い、次世代を担うまちづくり人材の育成を図る。		
	【交付対象事業が構造的な問題の解決に寄与する理由】 若者会議は、若者同士が交流する基盤を担うものであり、若者の市事業への参画が少ない現状や、主体的なまちづくりへの参画に対する意識の低下に起因する負のスパイラルを打開するものである。またこれらの活動を通じて地元愛の醸成を図ることにより、若い世代の定住促進に繋げるものである。		
対象経費の内訳(単位:千円)	<ul style="list-style-type: none"> ●メンバー会議等の開催に係る消耗品費等(18) ●メンバーの人材育成(スキルアップ研修等)に係る委託料等(81) ●市事業への参画に係る消耗品費等(46) ●主催事業の開催に係る消耗品費等(130) 		
事業費			
	予算額(円)	決算額(円)	執行率(%)
	900,000(450,000)	285,059(137,729)	31.7%

()内は、一般財源額を示す。

3. 事業の取組成果

実績	<p>(1)メンバー会議の開催:5回 活動内容の検討や市内行事への出店準備など</p> <p>(2)市内行事への参加:3回 ①花しょうぶまつり・・・紙コップと画用紙を使った「かえるの工作」、シールラリー ②東海道関宿街道まつり・・・じゃが丸揚げのふるまい、「ふりかえりドラゴン」の工作 ③江戸の道シティマラソン</p> <p>(3)まちづくり先進地の視察:1回 ①篠山チルドレンズミュージアム(子どもたちの「生きる力」を育むことを目的とした様々な展示やプログラム)</p> <p>(4)スキルアップ研修の実施:1回 ①イベント等の企画・運営や情報発信に関する研修</p> <p>(5)市民等との交流会の開催:2回 ①キックオフミーティング(5月) ②春の交流会(3月)</p>		
効果	2	<p>(理由)</p> <p>平成30年度は新たに7人のメンバーが加わり、メンバー会議や交流会などの活動を通じて若者同士の交流が図られた。 また、花しょうぶまつりや東海道関宿街道まつりへの出店、江戸の道シティマラソンへの参加など、市内の行事に参加するとともに、これまでの活動を通して得たつながりや学び・経験を生かし、メンバーが主体となって企画・運営するイベントを開催するなど、まちづくりへの参画につながる意識醸成や人材育成につながった。</p>	<p>1. 地方創生に非常に効果的であった</p> <p>2. 地方創生に相当程度効果があった</p> <p>3. 地方創生に効果があった</p> <p>4. 地方創生に対して効果がなかった</p>

4. 重要業績評価指標(KPI)

指標名称	指標値	実績値	単位	目標年月
若者会議の登録者数(累計)	40	50	人	平成31年3月
若者会議が参画した市の事業・イベント数	3	3	件	平成31年3月
若者会議が立案・実施した事業・イベント数	1	2	件	平成31年3月

5. 外部有識者の総合評価

総合戦略KPI 達成への有効性	1	1. 本事業が総合戦略のKPI達成に有効であった 2. 本事業は総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった
意見		<p>限られた予算の範囲内で、自分たちの創意工夫により交流活動が行われており、総合戦略の推進に寄与しているものと考えられる。</p> <p>一方で、若者会議の活動は交流会程度に留まっている側面もあり、例えば社会的課題の解決やコミュニティビジネスの創出など、これまでの交流から次の段階にステップアップし、よりアクティブな活動が求められる。メンバーの参加スタンスは様々であるため、若者同士の交流という事業本来の活動目的とのバランスに留意しつつ、専門部会を設けるなど、やる気のある人を行動に結びつける仕組みを構築する必要がある。</p> <p>また、こうした若者会議の活動をメディアで発信することで、活動が広く認知され、市全体を巻き込んだものとなるのが期待できる。</p>

6. 今後の事業展開

今後の方針	3	1. 事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる 2. 事業内容の見直し(改善)を行う(行った) 3. 特に見直しを行わず、事業を継続する 4. 継続的な事業実施を予定していたが中止した 5. 当初の予定通り事業を終了した
今後の事業展開 の考え方		<p>引き続き、メンバーが楽しみながら活動でき、若者同士が交流できる場となるよう、レクリエーションなども交えながら雰囲気づくりに取り組むとともに、活動のPRを行い主体的に活動するメンバーの充実に取り組む。また、政策アイデアの検討にあたっては、視察や研修を行うとともに、これまでの活動を通じた経験などを活かしながら、メンバーが主体的に取り組めるよう場づくりを行う。</p>